９　技術・家庭（技術分野）

(1)　これまでの課題

ア　平成 22 年度

・３年生の授業時数内における作品製作（実習）と理論面（座学）についての学習の割合に課題が残る。
・大多数の生徒が作品製作に興味関心をもって製作にあたるが、作品の完成度や創造性の伸長については個人差がある。
・学習内容によっては、他教科との関連（特に社会科・理科）を踏まえて授業を進める必要がある。

イ　平成 23 年度

・３年生の授業時数内における作品製作（実習）と理論面（座学）についての学習の割合に課題が残る。
・大多数の生徒が作品製作に興味関心をもって製作にあたっているが、作品の完成度や創造性の伸長については個人差がある。
・学習内容によっては、他教科との関連（特に社会科・理科）を踏まえて授業を進める必要がある。

(2)　指導の目標

ア　平成 22 年度

・１学年　①「ものづくり」に対する興味関心を高めさせる。
　　②工具の基本的な使用方法を理解させ、基礎技能と安全作業に努めさせる。
・２学年　①電気や機械・金属に関する基本知識を理解させ、興味関心を高めさせる。
　　②基礎技能を徹底すると共に、作品の完成度と創造性を高めさせる。
・３学年　①コンピュータの基本操作を身に付け、目的に応じたソフトを利用して作品を完成させる。
　　②作品の完成度及び創造性を引き上げ、作品に愛着をもつことができるようにさせる。

イ　平成 23 年度

・１学年　①「ものづくり」に対する興味関心を高めさせる。
　　②工具の基本的な使用方法を理解させ、基礎技能と安全作業に努めさせる。
・２学年　①電気や機械・金属に関する基本知識を理解させ、興味関心を高めさせる。
　　②基礎技能を徹底すると共に、作品の完成度と創造性を高めさせる。
・３学年　①コンピュータの基本操作を身に付け、目的に応じたソフトを利用して作品を完成させる。
　　②作品の完成度及び創造性を引き上げ、作品に愛着がもてるようにさせる。

(3)　指導の重点

ア　平成 22 年度

・言語活動を重視した授業を展開する。
・作品未完成が無いよう、補習授業を適宜実施する。

イ　平成 23 年度

・作品未完成が無いよう、補習授業を適宜実施する。
・自己評価カードの記録を行い、言語活動を重視した授業を展開させる。

(4)　授業改善に向けての具体的な取り組み

ア　平成 22 年度

・１学年　①導入的な製作品を取り上げ、体験させることで興味関心をもたせる。
②ものづくりを通じて、工具や機器の安全な取り扱い方を身に付けさせる。

・２学年　①身近な製作品を取り上げ、学習内容に興味関心をもたせ、学習内容を理解させる。
②作品製作を通じて、学習内容の定着に努める。

・３学年　①実習時間の確保に努めるために、学習プリントの内容を精選する。
②製作品に創造性が引き出せるものを取り入れる。

・全学年共通　①題材ごとに製作工程ごとの自己評価を取り入れ、課題解決に向けた主体的な学習活動を進める。
②学習プリントを使い、学習内容の定着を図る。
③作品の完成度を高めるための個別指導の重視と作業時間の確保に努める。
④作品の未完成が無いように、補習授業を適宜実施する。
⑤学習内容及び学習目標を明確に提示して、毎時の授業を展開する。
⑥製作実習においては、生徒間の言語活動を重視した生徒相互の「学び合い」「教え合い」の学習を多く取り入れる。
⑦製作時における、サブティーチャーの活用を推進する。

イ　平成 23 年度

・１学年　①導入的な製作品を取り上げ、体験させることで興味・関心をもたせる。
②ものづくりを通じて、工具や機器の安全な取り扱い方を身に付けさせる。

・２学年　①身近な製作品を取り上げ、学習内容に興味・関心をもたせ、学習内容を理解させる。
②作品製作を通じて、学習内容の定着に努めさせる。

・３学年　①実習時間の確保に努めるために、学習プリントの内容を精選する。
②製作品に創造性が引き出せるものを取り入れる。

・全学年共通　①題材ごとに製作工程ごとの自己評価を取り入れ、課題解決に向けた主体的な学習活動を進める。
②学習プリントを使い、学習内容の定着を図る。
③作品の完成度を高めるための個別指導の重視と作業時間の確保に努める。
④作品の未完成が無いように、補習授業を適宜実施する。
⑤学習内容及び学習目標を明確に提示して、毎時の授業を展開する。
⑥製作実習においては、生徒間の言語活動を重視した生徒相互の「学び合い」「教え合い」の学習を多く取り入れる。
⑦製作時における、サブティーチャーの活用を推進する。

(5)　平成 22 年度　授業評価から授業改善へ

ア　前年度の授業評価の結果からの課題

授業展開の第一として、毎時の学習内容と学習目標を明確に提示することで、生徒個々の学習への姿勢が高まることが分かる。従って、今後も年間学習計画を検討しながら的確な提示をすることが重要であると考える。

さらには、理論と実習については実習を好むことがはっきりと分かるので、理論と実習の兼ね合いを調整する必要があると思われる。また、生徒自らの発言質問等については少ないという結果が出ているが、教師側の発問の工夫や授業展開の中での個別指導等を行うことによって年々改善の方向へ向かっている。

以上のことを踏まえ、授業内容の精選に努めて生徒の負担を取り除き、実習に重点を置きながらも理論面での基礎基本を押さえた授業を継続することが課題としてあげられる。

イ　今年度の授業評価の結果分析と課題

授業の受け方に関しては、昨年度よりも数値が全体的に上向いた。特に、「発言したり質問したりしましたか」については、予想以上の向上を見せた。３年生ということもあるが、「分かりたい」という姿勢が身に付いてきたと思われる。

授業の仕方に関しては、同様に「発言や質問を受け止めてくれましたか」の数値が上向いた。これは授業時において、丁寧な説明や個別指導の結果からと考えられる。「分かりたい」という気持ちを大切にして、今後も生徒個々の状況に応じた指導を継続していくことが課題である。

ウ　授業改善の手だて

・具体的な手だて　①授業内容・授業目標の提示　②板書の工夫
③発問の仕方　④学習プリントの活用
⑤実習時間の確保（理論との関連付け）　⑥教具の整理と活用
⑦フィードバック学習（まとめの時間）　⑧自己評価による課題解決
⑨生徒の相互支援（サブティーチャーの育成）
⑩個別指導　⑪サブティーチャーの育成
・教科全体として　共通の課題を見出し、それに対しての改善策を立てる。
・授業技術や教材開発・評価評定等について　区中研教科部会での情報交換から具体策を得る。
・評価評定の判断資料を４観点に沿った幅広いもの（発言発表・レポート・作品・行動・定期考査等）とし、規準を明確にする。実習を主とし、理論面については基礎・基本を徹底し、他教科と重複しないように内容を精選して授業計画を立てる。
・機械や工具の点検整備に努め、安全に実習ができるように環境を整える。
・単元ごとのまとめを学習プリントに記入させ、生徒の学習内容の理解度を随時把握する。
・製作が遅れがちな生徒に対しては、適宜補習授業を設ける。
・教師による個別指導を行うとともに、グループでの相互援助を奨励する。
・興味関心が高められる製作品を取り上げ、作品への愛着を深める。
・学習プリントと並行して作業工程表や自己評価表などを活用し、毎時間の授業のまとめを行う。同時に、自己の課題を明確にさせ、課題解決学習に主体的に取り組めるようにする。

(6)　平成 23 年度　授業評価から授業改善へ

ア　前年度の授業評価の結果からの課題

「授業の受け方」、「授業の仕方」の両方で「発言したり質問したりしたか」「自分の考えを発表することができたか」という項目で、「ややあてはまらない」、「あてはまらない」と回答した生徒が３０％を超えている。このことから、発言する機会を意識して作る必要があることが分かるので、授業展開の工夫や個別指導を行うことで、改善を目指していく。

また、毎時間の学習内容や目標を明確にすることが学習意欲につながることが分かる。今後理論以外の作業に入るに従って、得意・不得意によって生徒の作業進度が異なっていくことが予想される。その際に個々の作業に対する目標をどこまで明確に提示できるか、ということが課題になると考えている。先に進んだ生徒が中心となり教え合いながら実技を進めていけるように、集団を作り上げることで、実習への意欲と理論における基礎基本の学習を両立させていくことが課題である。

イ　今年度の授業評価の結果分析と課題

「授業の受け方」に関しては「発言したり質問したりしましたか」という質問項目以外は「おおむねあてはまる」「ややあてはまる」の回答が９０％を超えている。忘れ物やチャイム着席など、他学年と比較してもしっかりとできている様子がうかがえるが、学校への慣れとともにこの数値が下がらないように、今後も注意しながら進めていく必要があると考えている。

授業の仕方に関しても同様に「自分の考えを発表することができましたか」という項目以外はおおむね高い評価がとなっている。また「発言や質問を受け止めてくれましたか」という項目でも「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせると９０％を超えていることから、質問や発言をしている生徒はそれに対しての返答にも満足していることがうかがえる。活発な意見が出るようにある程度自由に発言させていることから、普段発言しない生徒は発言しにくいと感じているのではないかと考えられる。そういった生徒からの質問を受けつけられるような時間や機会を設定していけるように、授業を組み立てていくことが課題である。

また、今回のアンケートには実習の部分が含まれていないことを考えると、実習に入ってからの細かい個別指導について検討、実践していくことが課題と考えている。

ウ　授業改善の手だて

具体的な手だてとして、以下のことがあげられる。

・授業内容及び板書の工夫
・毎時間の目標の提示
・発問と生徒からの質問を受ける時間や機会の設定
・プリントやワークの活用
・実習時間の確保
・教材・教具の整理・活用・補充
・自己評価による課題解決と言語活動への取り組み
・生徒同士の教え合いの充実化
・個別指導および補習授業

また、授業技術や教材開発・評価評定等について、区中研の教科部会での情報交換を踏まえ、具体的な案を得ると同時に、他校のよい部分を取り入れる柔軟さをもって取り組んでいく。

評価評定を判断するにあたり、４観点に沿ったものとして発言や発表、レポート、作品、授業態度、定期考査等から判断し、基準を明確にすることで生徒自身がより高い目標を設定できるようにする。特に実習に重きを置くため、機械や工具の点検整備を常に行い、安全に実習ができるように環境を整える。

(7)　平成 22 年度　研究の成果と課題

ア　「授業評価」について

・１学年　①分かりやすい授業に努めるとともに、導入的な製作品を取り入れたことで、教科への興味・関心が高まった。
②授業の学習目標･学習内容を明確に提示することで、授業への取り組む意欲が育ってきた。
・２学年　①今までの経験を生かした作品作りに励むことで、授業への関心・意欲が高まった。
②製作進度の速い生徒にサブティーチャーを任せることで、教え合いながらの授業展開が行われた。
・３学年　①教材には生徒の創造性を引き出すことができ、完成度の高いものを選択した。その結果、体験的な要素を含むことで自分の作品に愛着をもたせることができた。

②授業への取り組み姿勢が培われ、毎時の授業に対して学習目標･学習内容を理解して授業に臨んでいるため、充実感や達成感がある。

③作品製作などでは互いに協力し合い、教え合う姿も見られるようになってきた。

イ　今後の課題

・１学年　①他教科との関連を考慮し、理論面での精選を図る。さらに、基礎基本の技能を高めるとともに、個々の生徒の創造性が引き出せる題材を設定することに努める。

・２学年　①製作時間の確保に努めることを優先課題とし、生徒の創造性が引き出される作品製作の場とする。

・全学年　①作品製作に関しては、加工工程（作業のポイント）を示した自己評価表に基づいて授業展開し、生徒は自分の課題や目標に対して学習活動に取り組めるようにする。

②学習プリントの見直しを図り、分かりやすいように内容の改善に努める。

③このプリントで生徒が自己評価できるようにし、それを教師が点検することで生徒の学習状況が分かるようにさらに改善する。

ウ　課題解決の具体的手だて

①授業内容・授業目標の提示
②板書の工夫
③発問の仕方
④学習プリントの活用
⑤実習時間の確保（理論との関連付け）
⑥教具の整理と活用
⑦フィードバック学習（まとめの時間）
⑧自己評価による課題解決
⑨生徒の相互支援（サブティーチャーの育成）
⑩個別指導
⑪教科全体として共通の課題を見出し、それに対しての解決策を立てる。

・授業技術や教材開発・評価評定等については、区中研教科部会での情報交換から具体策を得る。
・評価評定の資料としては、４観点に沿った幅広いもの（発言発表・レポート・作品・行動・定期考査等）とし、規準を明確にする。
・実習を主とする。理論面については基礎・基本を徹底し、他教科と重複しないように内容を精選して授業計画を立てる。
・機械や工具の点検整備に努め、安全に実習ができるように環境を整える。
・単元ごとのまとめを学習プリントに記入させ、生徒の学習内容の理解度を随時把握する。
・製作が遅れがちな生徒に対しては、適宜補習授業を設ける。・教師による個別指導を行うとともに、グループでの相互援助を奨励する。
・興味関心が高められる製作品を取り上げ、作品への愛着を深める。
・学習プリントと並行して、作業工程表や自己評価表などを活用し、毎時間の授業のまとめをさせる。同時に、自己の課題を明確にさせ、課題解決学習を主体的に取り組められるようにする。